

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第10号 平成30年4月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9408 (直通)



平成29年10月に第6代武蔵野市長に就任いたしました松下玲子でございます。よろしく
お願いいたします。

武蔵野市は、市の農業振興基本計画において、「安全・安心 武蔵野農業 ～市民の豊かな生
活を彩る～」を掲げ、農地保全・地産地消・安定した農業経営の視点から、様々な事業の展
開を図っています。

高度成長期の宅地需要や相続等により、市内の農地は大きく減少し、その後も減少傾向はと
まらず、ついに30ヘクタールを割る所まできています。しかしながら、現在営農されている生産者の皆様は、農業に
真剣に向き合い、研鑽を重ね、素晴らしい農産物を生産されています。これらの安全・安心で新鮮な農産物は、JA
武蔵野新鮮館や市内に約40ヶ所ある農家の直売所などでお買い求めいただけます。市民の皆様には、ぜひとも市内
産農産物をご利用いただき、地産地消の瑞々しさを実感され、ファンとなって本市の農業を支えていただきたいと思います。

昨年12月の市議会定例会において、生産緑地指定の下限面積を500㎡から300㎡に緩和する条例案を提出し、
全会一致で可決いただきました。農地保全施策が一步前進しましたが、後継者や農地の貸し借り、相続対策などまだ
まだ都市農業を取り巻く課題が山積しています。今後も貴重な都市農地の保全を図り、安定した農業経営ができるよ
う市としても支援してまいります。

武蔵野市長 松下玲子

生産緑地の下限面積を引き下げ

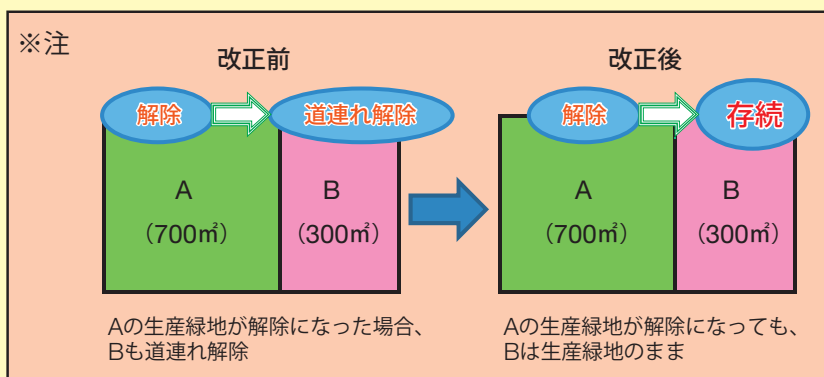
武蔵野市生産緑地地区の指定に関する条例が制定されました。この条例は、

- ①生産緑地地区を定めるにあたっての基本的な方針を定める
- ②生産緑地地区を定めることができる区域の規模に関する条件を、500㎡以上から300㎡以上に変更

といった内容です。

これにより、意欲ある農業者が所有している300～500㎡の農地等を生産緑地に追加指定する道が開けるとともに、
300㎡以上の農地であれば、隣接地の相続発生等による生産緑地解除に伴い、「道連れ解除（※注）」となることを
防ぐことができるようになりました。

農業者の経営の安定及び農地の保全につながることを期待されます。



市内の農風景（ブロッコリー畑）

本文とは関係ありません

農業委員会行政視察

平成29年10月6日から7日にかけて、友好都市である岩手県遠野市農業委員会が農林水産省農村振興局長賞を受賞した「耕作放棄地発生防止・解消活動」や遠野市農業の特徴等について行政視察に伺いました。また、東日本大震災復興支援のため、本市から陸前高田市と大槌町に派遣されている職員を訪問し、激励するとともに、震災復興の取り組み状況を視察しました。



陸前高田市役所では、農政担当職員から農業再生の新たな取り組みなどの話を伺いました。



津波被害に遭った旧大槌町役場前で、本市から派遣されている職員より、町の復興状況を伺いました。



遠野市では、女性農業委員さんに案内していただき、現地の特産品であるホップ、エゴマなどの肥培状況を視察しました。



遠野市産業まつり会場において、邑上前市長からのメッセージを榎本会長が代読し、本田遠野市長（左端）に届けました。

農産物品評会

平成29年11月11日、12日に農産物品評会が行われました。農産物の出来栄を競うことで、生産者の栽培技術の向上を図り、広く市民に武蔵野農業をPRする目的で毎年開催されています。今回は、市制施行70周年記念事業として、むさしの青空市、環境フェスタと同時開催し、例年より多くの来場者でにぎわいました。

当日は、東京都の審査員が、市内51戸の農家から出品された55種類、548点の農産物を厳正に審査しました。2度の台風と日照不足にもかかわらず、高品質で少量多品目栽培ならではの実り豊かな会場となりました。

1日目



8:30 農産物を搬入開始



14:00 厳正な審査中

2日目



品評会会場で展示中



直売は大盛況で、今年度は29分で完売!

最優秀賞受賞者	受賞品目
榎本 清一 (関前)	ばれいしょ、にんじん
井口 義一 (関前)	ブロッコリー、青首だいこん
松本 正人 (吉祥寺)	青首だいこん
井口 良美 (関前)	聖護院だいこん
後藤 直久 (境)	にんじん
高橋 清次 (境)	かぶ、こまつな、いんげん
田中 恒男 (吉祥寺)	さといも
名古屋 和宏 (関前)	切花 (菊)
高橋 宏通 (境)	みかん類
後藤 正昭 (境)	うど
櫻井 真二郎 (関前)	ゆず
田中 武徳 (吉祥寺)	キャベツ
高橋 政孝 (境)	柿
田中 政伯 (吉祥寺)	しいたけ

(敬称略)

フレッシュサラダ作戦

市内産の朝採り新鮮野菜を安価で提供する「フレッシュサラダ作戦」が、昨年11月に東急吉祥寺店、境南ふれあい広場公園、市役所の3ヶ所で開催されました。販売はどれも大盛況で、用意した野菜は短時間で完売となりました。

毎年開催しておりますので、ぜひお立ち寄りください。



▲農産物直売会

第59回東京都農業委員会・農業者大会開催

農地は輝く未来の宝「活かそう」「守ろう」「役立てよう」のスローガンで、2月22日に瑞穂町スカイホールにて開催されました。この大会において、受賞されました武蔵野市の方々をご紹介します。

- 企業の農業経営の顕彰（集团活動の部）
武蔵野市果樹組合
- 農業後継者顕彰
おおさが けいすけ
大坂 慶典さん（関前）
- 農業功労者
つちや まさゆき
土屋 正孝さん（境）
- 東京都農業会議会長感謝状
たかしま しゆんこ
高島 淳子さん（農業委員会職員）



▲左より果樹組合（船木副組合長、高橋組合長）
高島さん、土屋さん、大坂さん

武蔵野市東京うどん組合品評会



最優秀賞のウド

武蔵野市は軟化うどん発祥の地です。夏に群馬県の高冷地で育ったうどんの根は、11月に掘り上げて、市内の農家のうどん室（光を遮る穴倉）で温度・湿度・遮蔽等に気を遣いながら、伝統のわざで太く真っ白に育てられ、品評会（2月13日開催）に出品されました。

早春の香りを味わってみてください。

うどんの春巻き



簡単！味付け不要！
チーズの大きさがポイント。

- ①細切りうどん、大葉、チーズ、カニかまを春巻きの皮の上に乗せて巻く
- ②180℃の油で揚げる ③きつね色になったら出来上がり

①



②



③



イベントカレンダー (30年度上半期)

イベント名	時期	場所
栽培講習会 30年度市民農園使用開始者 初級講習会	4月7日（土） 講師：福田 俊 氏 （東京農業大学エクステンションセンター講師）	武蔵野市役所 812会議室
ほおずき市・野菜の即売会	6月中旬から7月上旬の月曜日	武蔵野市役所 正面玄関前
夏野菜品評会 展示と試食会	7月2日（月）	武蔵野市役所1階ロビー及び正面玄関前

※3月現在の予定です。詳しくは市報・市HPでご確認ください。

「新鮮で安全・安心な野菜はすぐそばに」 生産者の笑顔

新キャラクター登場

これから
私たちが
編集委員を
お手伝い
します。

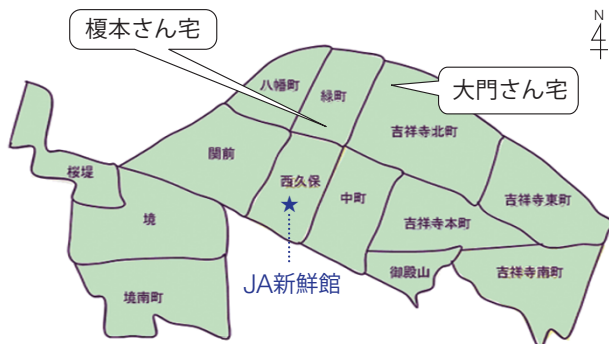


実(みのり)さん



豊(ゆたか)さん

武蔵野市内で
活躍する
農家の方々を
ご紹介しましょう。



N
4

榎本 春夫さん (緑町1丁目在住)



安政から農地を引き継ぐ農家の6代目。7人兄弟の次男として、幼少の頃より家を継ぐ使命は感じていました。

20歳の頃より農業を手伝い始め、主に夏野菜を主力に多摩青果市場に出荷したり、「武蔵野うど(丘うど)」の生産をしていました。

ウドを入れる木箱を組み立てるのは子供たちの小遣い稼ぎの仕事だったそうです。

父が他界し、27歳で一家を背負い、農業に加えて、農業委員、農協役員等、地域のお付き合いを引き継ぎました。

戦前所有していた土地は中島飛行機に収用され、代替地として得た関前の農地は、現在では市民農園に提供されています。

緑町の畑では、ジャガイモや里芋など家族で消費できる程度に作っています。

昨年3月、奥様たつての希望で運転免許を返上したそうです。金婚式もゆうに過ぎ、健康に留意して先祖代々の畑を守りたいと熱く語られていました。

おおかど 大門 陽子さん (吉祥寺北町5丁目在住)



平成16年から母の手伝いで農業を始め、3年前から一人で耕作しています。

大門さんは、自分が食べたい野菜を栽培し、コンセプトとしては、健康増進・露地栽培の旬だそうです。

特にこだわって栽培している野菜が、ブロッコリーです。庭先販売ならではの対話販売(「茎まで全部食べてくださいね」など)で美味しい食べ方を語り合うのも楽しみです。また、晩夏から秋にかけて力を入れているのは、「金時草」で、その綺麗な赤紫色に感動し、試行錯誤の上栽培できるようになりました。赤紫色のアントシアニンが魅力ですとおっしゃっていました。

大門さんの直売所「陽だまり」は、「ルッコラ屋さん」と呼ぶ方もいます。直売所に買いに来たお客さんがイタリアで買って来た種をまいて栽培してくださいとの依頼があり、20年以上も栽培継続中で、大門さんのルッコラは、子供さんたちも喜んで食べてくれるそうです。

今後はパクチーにも挑戦し、農業を楽しみながら、地域の健康増進にも貢献したいと意欲を語ってくれました。

<お知らせ>

○関前第3市民農園(関前3-26)は、平成30年1月31日をもって閉園しました。長らくのご利用ありがとうございました。

○関前第2市民農園(関前3-18)は、隣接する農地85㎡について農地所有者の方と新たに土地貸借契約を結び、6区画を拡張しました。



▲農業委員有志による耕地整備

編集後記

関係各位のご協力により第10号を発刊できましたことを感謝申し上げます。

都市農地は安全・安心な農産物の提供や癒しの場としての景観、災害から身を守る場所としての役割も担える存在です。これからも市民と農業者をつなぐ情報を提供するため編集委員一同、努力してまいります。

編集委員/櫻井真二郎、田邊安輝子、榎本清一、大谷壽子、高橋嘉晴、田中恒男

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などありましたら、農業委員会事務局 Tel. 0422-60-1833までお寄せください。